

運用報告書 (全体版)

第17期<決算日2019年8月15日>

世界好配当アドバンス・インフラ株式ファンドマネープールファンド

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／債券	
信託期間	2011年3月10日から2021年2月15日（当初2016年2月15日）までです。	
運用方針	安定した収益の確保を目指した運用を行います。	
主要運用対象	当ファンド	短期公社債マザーファンド受益証券。
	短期公社債マザーファンド	わが国の公社債。
組入制限	当ファンドの短期公社債マザーファンドの組入上限比率	制限なし。
	短期公社債マザーファンド	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	① 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ② 分配金額は、委託者が基準価額水準や市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。 ③ 留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

さて、「世界好配当アドバンス・インフラ株式ファンドマネープールファンド」は、2019年8月15日に第17期の決算を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

<運用報告書に関するお問い合わせ先>

コールセンター：0120-104-694

受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで

お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2

<http://www.am-one.co.jp/>

○最近5期の運用実績

決算期	基準 (分配落)	価額			債 組 入 比	券 率	債 先 物 比	券 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 金					
	円		円			%		%	百万円
13期(2017年8月15日)	9,990		0			△0.05	—	—	0.998978
14期(2018年2月15日)	9,985		0			△0.05	—	—	0.998455
15期(2018年8月15日)	9,979		0			△0.06	—	—	0.997939
16期(2019年2月15日)	9,973		0			△0.06	—	—	0.997322
17期(2019年8月15日)	9,968		0			△0.05	66.1	—	0.996805

※△(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

※債券組入比率、債券先物比率は実質比率を記載しております。

※実質的に本邦通貨建の公社債に投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行いますが、特定の指数を上回るまたは運動を目指した運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

※ベンチマークとは、ファンドの運用成果の評価基準(目標基準)となる指標をいい、約款または投資信託説明書(目論見書)において、その旨の記載があるものを指します。

○当期中の基準価額と市況等の推移

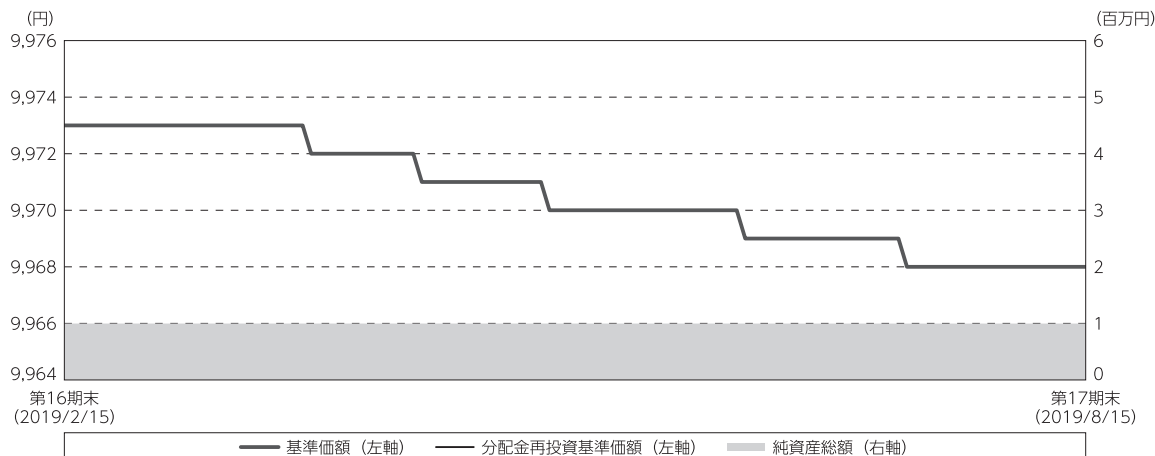
年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率	債 先 物 比	券 率
		騰 落	率				
(期首) 2019年2月15日	円		%		%		%
	9,973		—		—		—
2月末	9,973		0.00		—		—
3月末	9,972		△0.01		—		—
4月末	9,971		△0.02		—		—
5月末	9,970		△0.03		53.0		—
6月末	9,969		△0.04		66.2		—
7月末	9,968		△0.05		66.2		—
(期末) 2019年8月15日	9,968		△0.05		66.1		—

※騰落率は期首比。

※債券組入比率、債券先物比率は実質比率を記載しております。

運用経過の説明

基準価額等の推移 (2019年2月16日～2019年8月15日)



期 首：9,973円

期 末：9,968円 (既払分配金: 0円)

騰落率：△ 0.1% (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注5) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

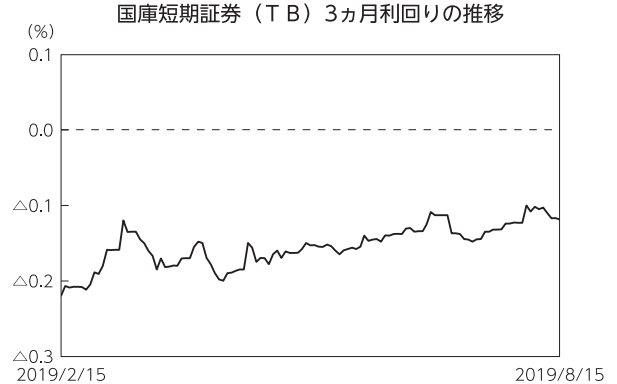
当ファンドは、短期公社債マザーファンド受益証券（以下「短期公社債マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、わが国の短期公社債に実質的に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行います。

当期の基準価額は、信託報酬等の費用の支払いなどから、期首の9,973円から△0.05%下落し、期末には9,968円となりました。

投資環境 (2019年2月16日～2019年8月15日)

国内短期金融市場

国内短期金融市場は、日銀のマイナス金利政策の継続から国庫短期証券3カ月の利回りはマイナスの水準で推移しました。



※国庫短期証券 (T B) 3ヵ月利回りの低下は価格の上昇を示し、逆の場合は下落したことを示します。

ポートフォリオについて (2019年2月16日～2019年8月15日)

●当ファンド

「短期公社債マザーファンド」を通じてわが国の短期公社債に実質的に投資しました。期末の組入比率は95.8%としました。

●短期公社債マザーファンド

流動性や信用力を勘案し、残存1年以内の公社債を中心としたポートフォリオで運用を行う方針です。残存1年以内の公社債を中心に運用を行いました。決算日時点の債券組入比率は約69.0%としました。

このような運用の結果、10,185円でスタートした基準価額は、期末には10,182円に下落しました。

ベンチマークとの差異について (2019年2月16日～2019年8月15日)

実質的に本邦通貨建の公社債に投資し、安定した収益の確保を目指して運用を行いますが、特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。よって、グラフは掲載しておりません。

■ 分配金（2019年2月16日～2019年8月15日）

収益分配金につきましては基準価額水準・市況動向等を勘案し、無分配とさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■ 分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第17期
	2019年2月16日～ 2019年8月15日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	74

- (注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金」(税込み)の額が一致しない場合があります。
- (注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金」(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益(含、評価益)」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

● 当ファンド

国内短期金融市場やファンドの資金流入出に留意しながら、「短期公社債マザーファンド」の組み入れを適宜行う方針です。

● 短期公社債マザーファンド

引き続き、短期公社債等で運用を行い、安定した収益の確保を目指しますが、市況環境によっては、目標とする運用ができない場合があります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2019年2月16日～2019年8月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 3	% 0.032	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(1)	(0.011)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(1)	(0.011)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(1)	(0.011)	受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
合 計	3	0.032	
期中の平均基準価額は、9,970円です。			

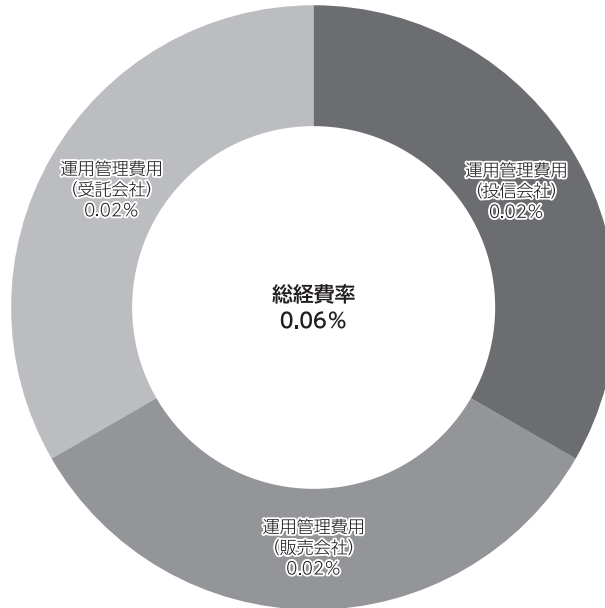
※期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
 ※金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

※比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

(参考情報)

◆総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.06%です。



(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

○売買及び取引の状況

(2019年2月16日～2019年8月15日)

該当事項はございません。

○利害関係人との取引状況等

(2019年2月16日～2019年8月15日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2019年2月16日～2019年8月15日)

期首残高 (元 本)	当期設定 元 本	当期解約 元 本	期末残高 (元 本)	取引の理由
百万円 1	百万円 -	百万円 -	百万円 1	当初設定時における取得。 商品性を適正に維持するための取得。

○組入資産の明細

(2019年8月15日現在)

親投資信託残高

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
短期公社債マザーファンド	千口 937	千口 937	千円 954

親投資信託の決算日における組入資産の明細につきまして、後述の親投資信託の「運用報告書」に記載しております。

○投資信託財産の構成

(2019年8月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
短期公社債マザーファンド	千円 954	% 95.8
コール・ローン等、その他	43	4.2
投資信託財産総額	997	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2019年8月15日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	997,041
コール・ローン等	42,094
短期公社債マザーファンド(評価額)	954,947
(B) 負債	236
未払信託報酬	236
(C) 純資産総額(A-B)	996,805
元本	1,000,000
次期繰越損益金	△ 3,195
(D) 受益権総口数	1,000,000口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,968円

○損益の状況 (2019年2月16日～2019年8月15日)

項 目	当 期
	円
(A) 有価証券売買損益	△ 281
売買損	△ 281
(B) 信託報酬等	△ 236
(C) 当期損益金(A+B)	△ 517
(D) 前期繰越損益金	△ 3,263
(E) 追加信託差損益金	585
(配当等相当額)	(987)
(売買損益相当額)	(△ 402)
(F) 計(C+D+E)	△ 3,195
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	△ 3,195
追加信託差損益金	585
(配当等相当額)	(987)
(売買損益相当額)	(△ 402)
分配準備積立金	6,478
繰越損益金	△10,258

- ・信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。
- ・追加信託差損益金とは、追加設定をした金額のうち元本を上下する額を処理する項目で配当等相当額と売買損益相当額にわかれます。

注記事項

- ・信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額及び期中一部解約元本額

期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	－円
期中一部解約元本額	－円
- ・分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,576円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、信託約款に定める収益調整金(987円)及び分配準備積立金(4,902円)より分配対象収益は7,465円(1万口当たり74.65円)ですが、分配を行っていません。

○分配金のお知らせ

分配金の支払いはございません。

短期公社債マザーファンド

第12期 運用報告書

(決算日 2018年8月22日)

『短期公社債マザーファンド』は、去る2018年8月22日に第12期の決算を行いましたので、ここに期中の運用状況をお知らせいたします。

当ファンドの仕組みは次のとおりです。

形 態	親投資信託
信 託 期 間	原則、無期限です。
運 用 方 針	主としてわが国の短期公社債に投資し、利子等の安定した収益の確保をはかることを目的として運用を行います。
主 要 運 用 対 象	わが国の公社債を主要投資対象とします。
組 入 制 限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。
分 配 方 針	運用による収益は、信託終了時まで投資信託財産中に留保し、期中には分配を行いません。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2

○最近3期の運用実績

決算期	基準価額		債組入比率	債先物比率	純資産額
	騰落	中率			
10期 (2016年8月22日)	円	%	%	%	百万円
	10,200	0.00	64.0	—	385
11期 (2017年8月22日)	10,195	△0.05	—	—	375
12期 (2018年8月22日)	10,188	△0.07	—	—	375

※△(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

※実質的に本邦通貨建の公社債に投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

※ベンチマークとは、ファンドの運用成果の評価基準(目標基準)となる指標をいい、約款または投資信託説明書(目論見書)において、その旨の記載があるものを指します。

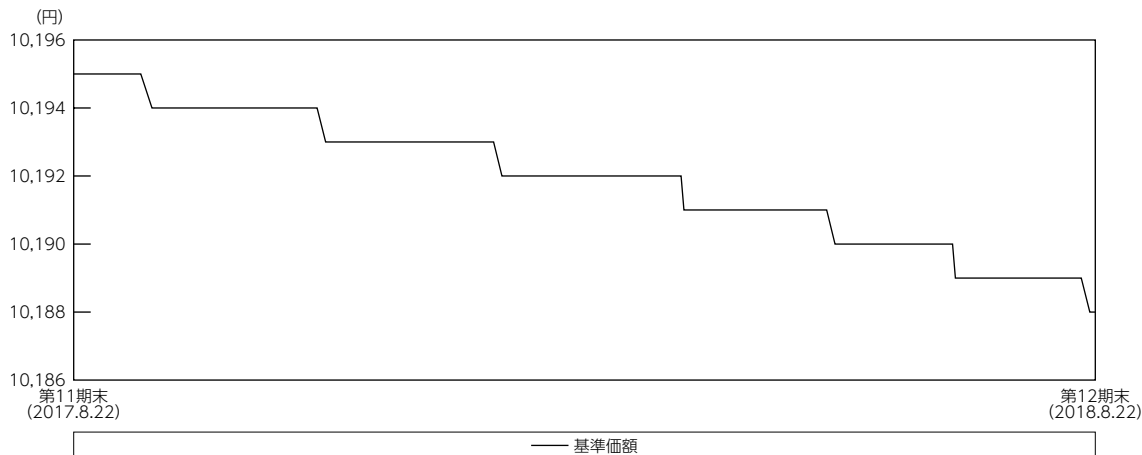
○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		債組入比率	債先物比率	債券率
	騰落	率			
(期首) 2017年8月22日	円	%	%	%	%
	10,195	—	—	—	—
8月末	10,195	0.00	—	—	—
9月末	10,194	△0.01	—	—	—
10月末	10,194	△0.01	—	—	—
11月末	10,193	△0.02	—	—	—
12月末	10,193	△0.02	—	—	—
2018年1月末	10,192	△0.03	—	—	—
2月末	10,192	△0.03	—	—	—
3月末	10,191	△0.04	—	—	—
4月末	10,191	△0.04	—	—	—
5月末	10,190	△0.05	—	—	—
6月末	10,190	△0.05	—	—	—
7月末	10,189	△0.06	—	—	—
(期末) 2018年8月22日	10,188	△0.07	—	—	—

※騰落率は期首比。

運用経過の説明

基準価額等の推移



基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主としてわが国の短期公社債に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行います。

基準価額はマイナス金利の影響もあり期首10,195円から、10,188円に7円の値下がりとなりました。

投資環境

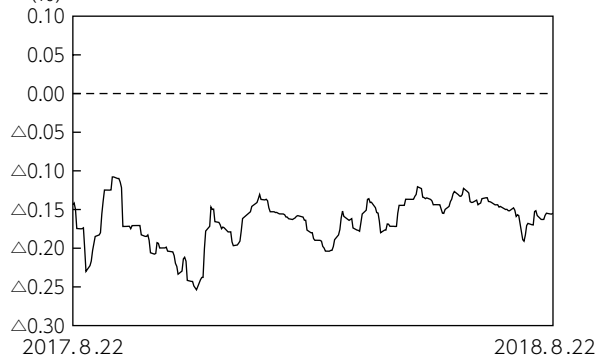
● 国内債券市場

当期間の残存1年程度の日本国債の利回りについては、日銀の金融緩和の影響もあり、マイナス金利が継続しました。日銀は黒田総裁の第2期以降も「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を続けています。

また、2018年7月の日銀政策決定会合において、長期金利を0%程度に誘導する目標自体は維持しつつ、変動幅の上限を0.2%程度まで容認する金融政策の調整を行いました。発表直後は、一時的にボラティリティが高まる場面もありましたが、イールドカーブは全体的に狭いレンジでの動きに留まっています。

一方、国債を除く債券については、プラス利回りに対するニーズも強いことから、0%前後の利回りに張り付いた状態になっています。

国庫短期証券 (T B) 3ヵ月利回りの推移



※国庫短期証券 (T B) 3ヵ月利回りの低下は価格の上昇を示し、逆の場合は下落したことを示します。

■ ポートフォリオについて

主としてわが国の公社債に投資を行い、安定した収益の確保を目指した運用を行いましたが、ファンドにとって損失の発生が明らかなマイナス利回りの債券の組み入れを行わず、期末時点での債券の組み入れはありません。

■ ベンチマークとの差異について

本邦通貨建ての公社債に投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行いますが、特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。よってグラフは掲載していません。

今後の運用方針

引き続き残存1年以内の公社債を中心に投資を行い、安定した収益の確保を目指しますが、市場環境によっては、目標とする運用ができない場合があります。

○1万口当たりの費用明細

(2017年8月23日～2018年8月22日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2017年8月23日～2018年8月22日)

該当事項はございません。

○利害関係人との取引状況等

(2017年8月23日～2018年8月22日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2018年8月22日現在)

2018年8月22日現在、有価証券等の組入れはございません。

○投資信託財産の構成

(2018年8月22日現在)

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 375,595	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	375,595	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年8月22日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	375,595,509円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	375,595,509
(B) 負 債	720
未 払 利 息	720
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	375,594,789
元 本	368,647,987
次 期 繰 越 損 益 金	6,946,802
(D) 受 益 権 総 口 数	368,647,987口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,188円

○損益の状況 (2017年8月23日～2018年8月22日)

項 目	当 期
(A) 受 取 利 息 等 収 益	△ 241,831円
支 払 利 息	△ 241,831
(B) 当 期 利 益(A)	△ 241,831
(C) 前 期 繰 越 損 益 金	7,188,633
(D) 計 (B+C)	6,946,802
次 期 繰 越 損 益 金(D)	6,946,802

注記事項

・投資信託の期首元本額、期中追加設定元本額及び期中一部解約元本額

期首元本額	368,647,987円
期中追加設定元本額	-円
期中一部解約元本額	-円

期末元本の内訳

新光ピュア・インド株式ファンド	218,092,300円
新光ブラジル債券ファンド	107,294,012円
世界好配当アドバンスト・インフラ株式ファンド (通貨選択型) 円コース	5,039,539円
世界好配当アドバンスト・インフラ株式ファンド (通貨選択型) 豪ドルコース	17,759,859円
世界好配当アドバンスト・インフラ株式ファンド (通貨選択型) ブラジルリアルコース	18,509,839円
世界好配当アドバンスト・インフラ株式ファンド (通貨選択型) 南アフリカランドコース	1,014,560円
世界好配当アドバンスト・インフラ株式ファンド (通貨選択型) マネープールファンド	937,878円
合 計	368,647,987円